

2007年12月10日

NHK経営委員会 委員各位

NHK会長候補者の推薦に関する申し入れ

経営委員各位におかれましては、よりよい公共放送実現のために、日夜ご精励のことと敬意を表します。

私たちは、来年1月末に任期満了を迎える現会長・橋本元一氏の後任会長選任にあたって、貴経営委員会が適格者を広く視聴者・市民に開かれた論議を通じて求められることを願う主旨から、原寿雄さん(ジャーナリスト、元共同通信編集主幹・専務理事)と永井多恵子さん(現・NHK副会長)のお二人を、ここに会長候補者として推薦申し上げます。

公共放送NHKが言論・報道機能をもつ基幹的な放送メディアとして民主主義社会に果たす役割を考えると、私たちはそのNHKを代表する会長の選出手続きに、重大な関心を持たざるを得ません。その場合、求められるのは、選出過程における公開性と視聴者参加性であり、選出基準の明確化です。私たちは、NHK会長の選出基準を、第一義的に放送のジャーナリズムと文化的役割について高い見識を持ち、言論・報道機関の長として、自主・自立の姿勢を貫ける人物かどうかにか置くべきだと考えます。

今回推薦した原寿雄さんは、日本における言論・報道界のご意見番的存在で、卓越した見識と知性を兼ね備えたジャーナリスト・文化人です。また永井多恵子さんは「新生NHKはBBCを手本に」を確たる信条に掲げて副会長の重責を果たし、国会などでの答弁・対応も、その見識と自主・自立の姿勢において際立っています。ともに万人が認める会長最適者と、私たちは確信します。

公共放送の会長選出については、イギリスや韓国などで公募制、推薦制が実施され、国民的論議が交されるなかで民意を代表する優れた人材を選ぶ仕組みが工夫・採用されています。日本でも、現行放送法の枠内で、経営委員会の裁量により公募・推薦制を採用することは十分可能です。従来、会長の選出作業は密室のなかで行われ、そのため政府首脳の意向に少なからず左右されてきました。こうした宿弊を断ち切り、透明な仕組みのなかで、広く視聴者・市民の参加と総意をもとに次期会長を選出することは、NHKと視聴者の絆(きずな)を強め、失われかけた信頼を回復するうえでも重要と考えます。私たちは、今回の推薦活動がきっかけとなって、他薦・自薦の輪が大きく広がり、国民的論議のなかで次期会長が選ばれることを願っております。

貴経営委員会が、私どもの推薦した候補者を含めて、開かれた透明なプロセスのなかで広い視野から公共放送の責任者に真にふさわしい人材を選ばれることを心から期待します。

原寿雄さんの略歴：

1925年、神奈川県平塚生まれ。ジャーナリスト。

東大法学部卒。50年、社団法人共同通信社入社。社会部記者、バンコク支局長、外信部長、編集局長、編集主幹を歴任。常務理事、専務理事として編集、電波、ニューメディアを担当したのち、86-92年、株式会社共同通信社社長。この間、民放連放送番組調査委員会委員長、NHKと民放による第三者機関「放送倫理・番組向上機構(BPO)」の「放送と青少年に関する委員会」委員長などを務める。

主な著書は『ジャーナリズムの思想』(岩波新書)、『新しいジャーナリストたちへ』(晩聲社)、『それでも君はジャーナリストになるか』(晩聲社)、『新聞記者』(東洋経済新報社)、『市民社会とメディア』(編著、リベルタ出版)など多数。

永井多恵子さんの略歴

1938年、東京都生まれ。現・NHK副会長。

早稲田大学卒。60年、アナウンサーとしてNHK入局。解説委員、解説主幹を歴任。1990年、女性初の浦和放送局長をつとめる。95年、NHK退職後、世田谷文化生活情報センター館長に。2005年、橋本新執行体制のもとで副会長(女性では初めて)に就任。毎月第1日曜日に「永井多恵子のあなたとNHK」を担当し、視聴者とNHKを結ぶ活動に貢献。

主な著書は、「文化ジャーナリズム試論」(石橋湛山記念早稲田ジャーナリズム大賞記念講義録2、早稲田大学出版部、所収)、『21世紀の家族像』日本放送出版協会/共著)、「『アーツプラン21』と芸術文化支援」『文化庁月報』1996年11月など多数。

以上

原さん、永井さんをNHK会長候補に推薦する会

世話人 松田 浩

桂 敬一

野中章弘